

ねぎしょうちえんだより 9月号



パラリンピックを観戦して

園長 大村 弘子

園に子供たちの元気な声が響いています。いよいよ2学期のスタートです。

さて、この夏はオリンピック・パラリンピックが開催され、様々な競技の様子が報道されています。参加している選手の皆さんの姿や思いに感動したり、考えさせられたりしました。

先日、車椅子ラグビーの試合をテレビで観戦しました。私は今回初めてルールを理解し、このスポーツのおもしろさを知りました。試合は4人对4人で行います。選手には障がいの程度に応じて、それぞれに持ち点が与えられ、障がいの軽い選手ほど持ち点が高く、4人の持ち点の合計が8点を超えないようにチームを編成します。また、12秒以内にセンターラインを通過し40秒以内にトライをする、など他にもいくつかのルールがあります。私は、参加している選手全員が競い合い、楽しめるルールであることに驚きました。観戦している私もワクワクし、応援するのが楽しかったです。参加している人も見ている人も楽しいのがスポーツのおもしろさであり、幼稚園で行っている運動遊びも同じだなと思いました。繰り返し遊びながら子供たちと考え合って、ルールを作っていくことの大切さを改めて感じました。

また、トライをたくさん決めたハイポインター（障がいの軽い選手）が試合の後に「ローポインター（障がいの重い選手）が相手チームの選手をブロックしたりタックルしたりして自分がトライしやすいようにしてくれたことや、他のハイポインターがうまくパスをしてくれたことなど、皆のおかげでトライすることができた」とチームの仲間感謝していたのが印象的でした。できることや得意なことが違う人たちが、それぞれが自分の力を出しきって役割を果たし、それを互いに認め生かし合う、すばらしいと思いました。幼稚園でも皆が何もかも同じようにできるようになることを目指すのではなく、一人一人が自分の持ち味・力を集団の中で発揮し「〇〇ちゃんのおかげだね」と思ったり思われたりする経験を大事にしています。その中で自分のよさや頑張りを実感し、さらに力を伸ばしていくように援助しています。

2学期は楽しい行事も予定されています。緊急事態宣言が延長され、通常通りにはできないこともあるかと思いますが、できないことを数えずに、柔軟に、工夫しながら教育活動を進めていきたいと思えます。引き続き、感染対策も徹底してまいります。よろしくお願ひいたします。

夏休み中に全国幼児教育研究協会の全国大会がオンラインで行われました。「社会に開かれた教育課程～地域の文化に親しむ～」というテーマの分科会で台東区立幼稚園の取組を教員が発表しました。本園の「俳句の会」についても紹介しました。